

JIS

人間工学－人とシステムとの インタラクション－アクセシビリティに 対する人間工学的アプローチ

JIS Z 8529 : 2024

(JES/JSA)

令和 6 年 3 月 21 日 制定

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 高齢者・障害者支援専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	倉 片 憲 治	早稲田大学
(委員)	石 原 恵 子	広島国際大学
	石 渡 利 奈	国立障害者リハビリテーションセンター研究所
	伊 藤 納 奈	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	柏 本 英 子	公益社団法人日本介護福祉士会
	河 村 真紀子	主婦連合会
	北 風 晴 司	一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会
	黒 岩 嘉 弘	公益財団法人テクノエイド協会
	齋 藤 直 人	一般社団法人全国コープ福祉事業連帯機構
	園 山 洋 一	公益社団法人日本包装技術協会
	武 井 康 之	独立行政法人製品評価技術基盤機構
	永 山 はるみ	一般財団法人日本消費者協会
	二 瓶 美 里	東京大学
	根 村 玲 子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサル タント・相談員協会
	畠 中 順 子	一般社団法人人間生活工学研究センター
	藤 木 和 子	日本障害者協議会
	星 川 安 之	公益財団法人共用品推進機構
	森 田 朝 子	一般財団法人在宅ケアもの・こと・思い研究所
	渡 邊 慎 一	横浜市総合リハビリテーションセンター

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：令和 6.3.21

官 報 掲 載 日：令和 6.3.21

原 案 作 成 者：一般社団法人日本人間工学会

(〒160-0011 東京都新宿区若葉 1-10 大洋ビル TEL 03-6380-6730)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 050-1742-6017)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会（部会長 松橋 隆治）

審議専門委員会：高齢者・障害者支援専門委員会（委員長 倉片 憲治）

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課（〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1）にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	1
4 人とシステムとのインタラクションにおけるアクセシビリティ及び人間工学の考え方	3
5 アクセシビリティをサポートする ISO 9241 規格群の人間工学の原則	3
5.1 一般	3
5.2 JIS X 8341-6 におけるアクセシブルなソフトウェアを設計するための原則	4
5.3 JIS Z 8520 の原則	5
5.4 その他の関連する原則	7
5.5 JIS Z 8530 に基づく人間中心設計の原則	9
6 アクセシビリティを考慮した設計活動	10
6.1 一般	10
6.2 アクセシビリティを考慮した設計活動の内容	10
6.3 活動のためのユーザ関連の情報インプット	12
6.4 ユーザ及び利用状況の把握	12
6.5 ユーザ要求事項に対応した設計解の作成	13
6.6 評価	15
附属書 A（参考）世界標準のアクセシビリティ指針	16
参考文献	18
附属書 JA（参考）JIS と対応国際規格との対比表	21
解 説	23

まえがき

この規格は、産業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本人間工学会（JES）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を制定すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本産業規格である。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

人間工学—人とシステムとのインタラクション— アクセシビリティに対する人間工学的アプローチ

Ergonomics of human-system interaction— An ergonomic approach to accessibility

序文

この規格は、2021 年に第 2 版として発行された **ISO 9241-20** を基とし、日本国内での事情と異なる点があるため、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で、側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

1 適用範囲

この規格は、次の情報を含むアクセシビリティに対する人間工学的アプローチの設計指針を示す。

- a) 人とシステムとのインタラクションにおけるアクセシビリティの重要性
- b) **ISO 9241** 規格群の原則とアクセシビリティとの関係についての考察
- c) **JIS Z 8530** のプロセスで、アクセシビリティに焦点を当てた活動に関連する記載
- d) インタラクティブシステムのアクセシビリティに関連する規格の参照

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 9241-20:2021, Ergonomics of human-system interaction — Part 20: An ergonomic approach to accessibility within the ISO 9241 series (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1** に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

この規格には、引用規格はない。

3 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、次による。

ISO 及び **IEC** は、次の URL において規格に用いる用語のデータベースを維持している。

- **ISO Online Browsing Platform** : <https://www.iso.org/obp>